

○福井 弥生* 小森 尚子** 坂本 晶子**

(*京都女大, **㈱ワコール)

目的 成長発育の著しい乳幼児期に着用する衣料は、生理機能を阻害せず、心身の発達・成長に順応し、さらに運動機能性を考慮した設計が望ましい。そのため、乳児の発育に応じた身体の寸法や形態の特徴を把握する必要があると考える。しかし乳児用のJIS衣料サイズは1980年以来改正されていない。そこで0歳児に適合した衣料の設計を目的に13ヶ月以下の乳児を対象に計測を実施し、成長による身体形態の特徴について考察を試みた。

方法 研究資料は新生児～13ヶ月の乳児341名の計測原票である。計測時期・場所は1997年5～11月にかけて、主に京都市内の保育園(所)および産科医院である。計測項目は基本計測42項目と動作時の形態・寸法把握のための24項目である。計測方法はJIS衣料サイズのための乳児計測方法に準拠し、一部私案を加えた。計測値資料を男女別に月齢区分し統計処理を施し、加月齢による成長様相、動作による変化について考察した。

結果 ①42項目平均値の月齢毎・男女間には有意差はほとんど認められず、0歳児の衣料に男女差は不要と考える。②男女一括月齢的成長は、高径・周径とも4ヶ月頃までは顕著であるが、以後緩慢となる。③月齢別の成長様相と日常動作機能を考慮して、1(0・1ヶ月)、2(2・3・4ヶ月)、3(5・6・7ヶ月)、4(8・9・10ヶ月)、5(11・12・13ヶ月)の5ステップに分けて考察した。ステップ1と2間の増加率は、ほとんどの項目が、ステップ2以降の各ステップ間より顕著であった。④③の考察から0歳児のサイズ区分は、ステップ別成長様相と動作特性から考慮して、4グループに区分したサイズ設定が妥当と考える。⑤設定した部位の動作時の伸展率は、長径では上肢上挙時の脇丈、座位時の殿溝部、前屈時の背丈が、幅径では後腋点間幅が特に大きかった。